

平成 28 年 4 月 13 日

## 家庭菜園等における有毒植物による食中毒に御注意ください

消費者が園芸店で苗等を購入し、家庭菜園等で食用植物(野菜、野草、ハーブ等)を栽培・採取することが人気ですが、誤って有毒植物を採取して食べた場合、重篤な食中毒が発生する危険性があります。

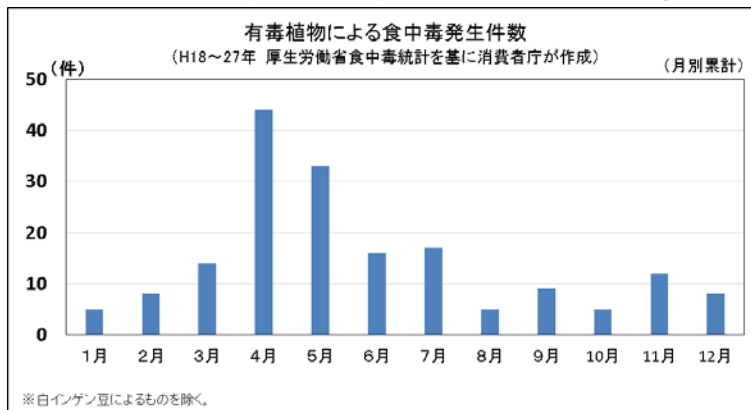
平成 27 年は、家庭菜園や山菜取り等を通じて、家庭で有毒植物を喫食したことにより、42 名が食中毒になりました(有毒植物との関連が疑われる事例を含みます。)。このうち4名が死亡し、死亡者数が過去 10 年間で最多となっています。

以上を踏まえ、消費者庁では、全国の消費者 2,000 人を対象に、家庭で育てた植物や自然に生えていた植物の喫食等に関する意識・行動のアンケート調査を実施し、その結果を基に有毒植物による食中毒を防ぐために大切なポイントをまとめました。あわせて、消費者への周知啓発など有毒植物による食中毒予防に取り組むよう、関係団体に要請しました。

有毒植物による食中毒は、毎年春、特に4～5月に多く発生していますので、これからの季節は特に御注意ください。

### 1. 有毒植物による食中毒は毎年発生！

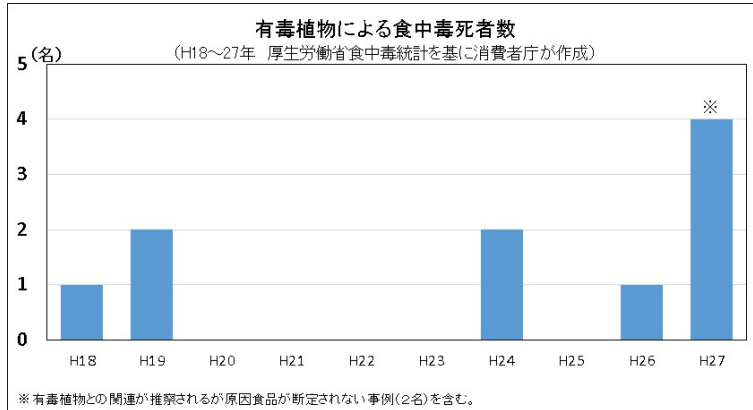
有毒植物による食中毒は毎年発生しており、特に新芽などで植物の見分けがつきにくい4月、5月に多く発生し、今年も既に発生しています。



(最近発生した有毒植物の誤食による食中毒事例)

発成年月	発生場所	概要	症状
平成 28 年 4 月	熊本県	自宅の庭のスイセンをニラと思い採取、喫食	下痢、おう吐
平成 28 年 3 月	山形県	自宅の庭のスイセンをニラと思い採取、喫食	おう吐
平成 27 年 9 月	山形県	自宅に生えていたイヌサフランを誤食	死亡
平成 27 年 6 月	北海道	家庭菜園で採取したイヌサフランを誤食	死亡

過去10年間に有毒植物により10名が死亡しています（原因食品が断定されない事例を含む。）。死亡事例では、園芸店等で観賞用として販売されることがある「イヌサフラン（コルチカム）」の誤食によるものが4名と最も多く発生しています。

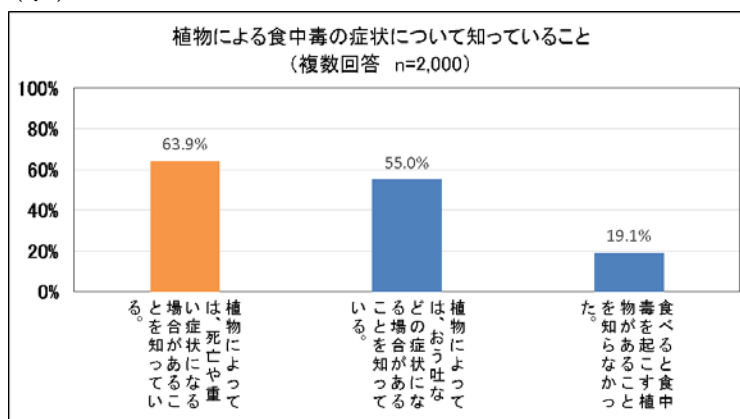


H18~27年の有毒植物による食中毒				
<患者数が多い植物>	事件数	患者数	死亡者数	似ている植物
スイセン	37	149	0	ニラ、ノビル等
バイケイソウ	21	65	0	オオバギボウシ等
チョウセンアサガオ(ダチュラ)	21	55	0	ゴボウ、オクラ等
<死亡者数が多い植物>	事件数	患者数	死亡者数	似ている植物
トリカブト	12	25	2	ニリンソウ等
イヌサフラン(コルチカム)	8	16	4	ギョウジャニンニク等
グロリオサ	2	2	2	ヤマノイモ

(厚生労働省食中毒統計を基に消費者庁が作成)

## 2. 食用の植物を植えましょう！

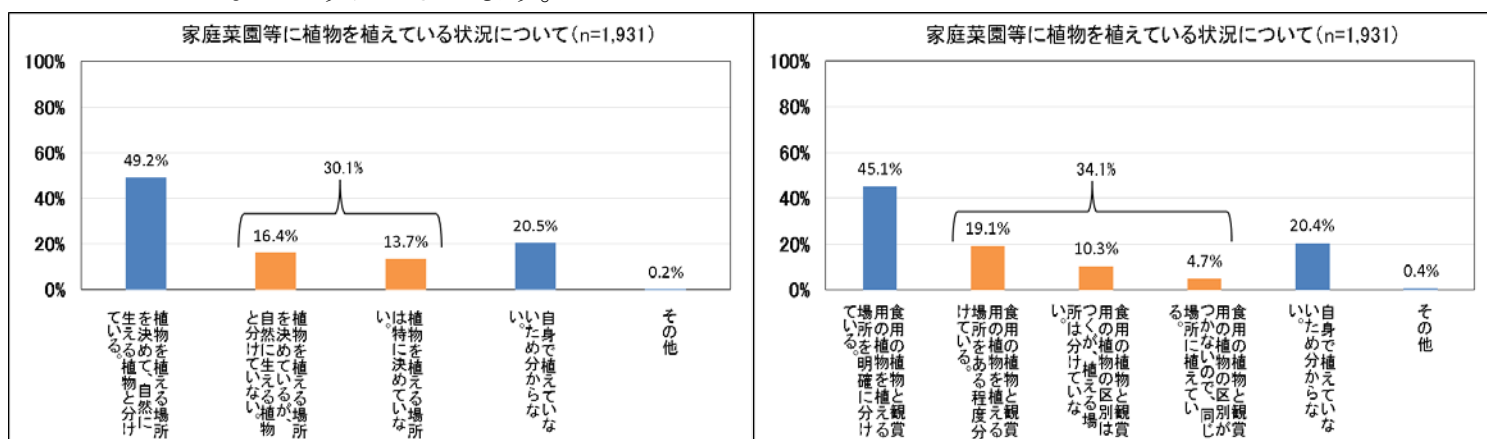
過去10年間において「家庭菜園や庭などに植えた植物又は自然に生えた植物を食べたことがある。」と回答した方のうち、園芸店等で観賞用として販売されている植物について、「植物によっては、死亡や重い症状になる場合があることを知っている。」と回答した方が63.9%にとどまり、約4割の方が植物による食中毒で死亡する場合があること等を知っていると回答しませんでした。 食べることを目的にする場合、食用の植物かよく確認して植え、それ以外の植物は食べるのをやめましょう。(Q9)



### 3. 食用植物は鑑賞用植物と区別して植えましょう！

家庭菜園等で植物を植える際に、「植える植物と自然に生える植物を分けていない」又は「植える場所を決めていない」と回答した方が30.1%、また、食用の植物と鑑賞用の植物を明確に分けていないと回答した方が34.1%いることが分かりました。(Q11、Q12)

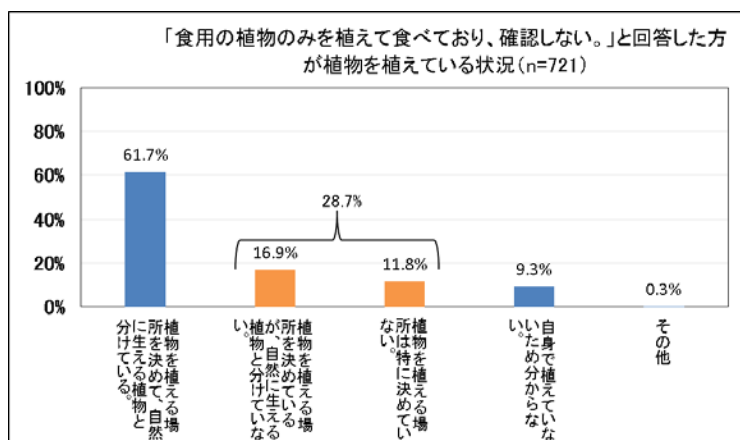
家庭で発生する有毒植物による食中毒では、自然に生えた植物や観賞用の植物を食用の植物と誤認して食べた事例が複数発生しています。食用の植物を植える際には、明確に区別し、家庭内で共有するとともに、その区画以外のもものは食べないようにしましょう。



### 4. 食べられるか自信がないものは、食べるのはやめましょう！

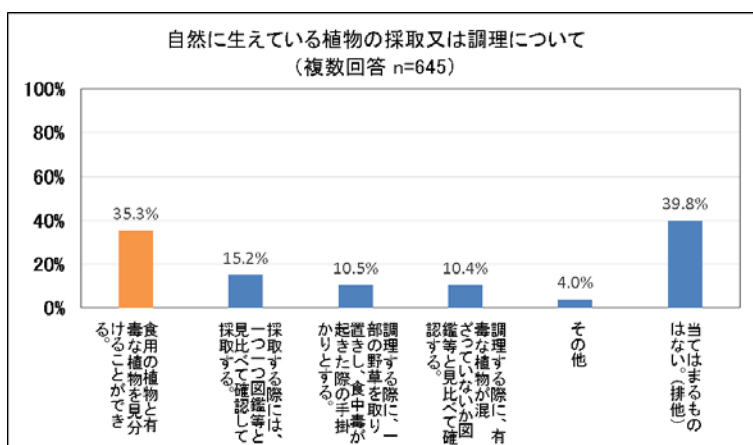
今回の調査では、家庭菜園等の植物を食べる際に、その植物が食用かどうか自信がない場合の確認方法について、「自信がなくても確認しない」と回答した方は3.9%でした。有毒植物には、食用の植物と名前や見た目がよく似ている植物があるため、確実に食用だと自信が持てないものは食べるのはやめましょう。(Q13)

また、家庭菜園等の植物が食用かどうか自信がない場合の確認方法について、最も多かった「食用の植物のみを植えて食べており、確認しない。」と回答した方のうち、28.7%の方が「植える植物と自然に生える植物を分けていない」又は「植える場所を決めていない」と回答しています。食用の植物の近くに見た目が似た植物が生える場合もあるため、植物を採取する際には、食用の植物のみ植えていると過信せずよく確認して採取しましょう。(Q11、13)



## 5. 野草を食べる際にも十分に注意しましょう！

今回の調査において、過去3年間に野山等に自然に生えている植物を採取又は調理した経験について聞いたところ、「食用の植物と有毒な植物を見分けることができる。」と回答した方は35.3%でした。野草を食べる際にも、確実に食用と自信がないものは食べるのをやめ、見分けに迷ったら最寄の保健所へ相談しましょう。また、野草を食べて体調が悪くなったら、すぐに医師の診察を受けましょう。その際に食べた野草を取り置きしておく、原因を特定する手掛かりになることがあります。(Q15)



(参考)

厚生労働省 自然毒のリスクプロファイル

[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/poison/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/poison/index.html)

### 【本件に関する問合せ先】

消費者庁消費者安全課 藤田、石川、石亀

TEL : 03(3507)9280 (直通)

FAX : 03(3507)9290

消費者庁ホームページ : <http://www.caa.go.jp/>



# よく似ている食用植物と有毒植物



ニラ

スイセン



ギョウジャニンニク

イヌサフラン  
(コルチカム)

# 消費者の有毒植物(植物性自然毒)に関する実態調査

平成 28 年 4 月 13 日  
消費者庁消費者安全課

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

例年春季は自身で採取した有毒植物(植物性自然毒)を原因とする食中毒が多く発生しており、4月から5月までに事件数の増加が見られる。

また、平成 18 年から平成 27 年における、食中毒による死者 49 名のうち、有毒植物による死者は 10 名となっている(有毒植物との関連が推察されるが原因食品が断定されない事例を含む。)

有毒植物による食中毒を消費者が予防するためには、消費者自身が採取した有毒植物を食用可能な植物と誤認しないことや食用かどうか判断がつかない場合は食べないことが、最も重要である。

このため、消費者自身が採取する植物に関する意識・行動を調査し、不適切な点を明らかにすることで、今後の食中毒予防に関する注意喚起に役立てることとする。

### (2) 調査期間・対象・調査方法・対象地域

- ① 実施期間:平成28年3月23日(水)～28日(月)
- ② 調査対象:過去10年間に、家庭菜園や庭などに植えた植物を食べたことがある方又は家庭菜園や庭などで自然に生えていた植物を食べたことがある方(有効回答数2,000人)
- ③ 調査方法:インターネット調査
- ④ 対象地域:全国8ブロック(北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中国、四国、九州(沖縄を含む。))

## 2. 回答者の属性(Q1～7)

### ① 性別(n=2,000)(Q1)

男性50.3% 女性49.7%

### ② 年齢(n=2,000)(Q2):16～65歳の男女

男性					女性				
16～25	26～35	36～45	46～55	56～65	16～25	26～35	36～45	46～55	56～65
8.0%	10.1%	11.4%	9.5%	11.2%	7.6%	9.9%	11.2%	9.5%	11.6%

### ③ 居住地(n=2,000)(Q3)

北海道	東北	関東甲信 越	東海北陸	近畿	中国	四国	九州 (沖縄県を含む)
4.3%	7.0%	38.6%	13.5%	16.9%	5.6%	3.0%	11.1%

### ④ 御自身、御家族、知人・友人等が植えた植物又は自然に生えていた植物を食べた経験とその時期(n=2,000)(Q4)

	過去1年 以内	過去3年 以内	過去5年 以内	過去10年 以内	この期間に食べた経験はない
家庭菜園や庭などに植えた植物を食べたことがある。	74.7%	11.8%	5.6%	4.4%	3.5%
家庭菜園や庭などで自然に生えていた植物を食べたことがある。(御自身等が植えたものは除く。)	36.3%	8.3%	4.5%	4.1%	46.8%
鉢植えやプランターなどに植えた植物を食べたことがある。	44.0%	12.3%	5.3%	6.7%	31.7%
農業を営んでいるため、その作物を食べたことがある。	15.1%	3.3%	2.2%	3.0%	76.4%
野山や林などの野外で採取した植物を食べたことがある。(購入したものは除く。)	24.2%	8.1%	4.8%	7.8%	55.1%
台所など屋内で育てた植物を食べたことがある。	27.8%	8.2%	3.7%	4.6%	55.7%



⑤ 同居家族の属性(n=2,000) (Q5)

0～6歳の方がいる。	7～12歳の方がいる。	13～15歳の方がいる。	16～18歳の方がいる。	65歳以上の方がいる。
14.5%	11.5%	7.9%	8.8%	26.3%
妊婦の方がいる。	上記以外の同居者がいる。	同居者はいない (単身・1人暮らし)		
1.1%	51.3%	12.6%		



### 3. 意識調査の結果

Q6 過去に食べたことがある植物について、植えた方に当てはまるものをお答えください。(お答えはいくつでも) (n=1,931) ※Q4で「家庭菜園や庭などに植えた植物を食べたことがある。」と回答した方

御自身	58.6%
御家族	68.6%
知人・友人	9.3%
前居住者や大家等が植えていた。	1.4%
その他	1.1%
誰が植えたかわからない。	1.2%

Q7 過去に家庭菜園や庭などに植えて食べたことがある植物の入手先について、当てはまるものをお答えください。(お答えはいくつでも) (n=1,131) ※Q6で「御自身」と回答した方

園芸店等で購入した。	91.0%
野山から持ち帰った。	14.5%
知人・友人からもらった。	26.4%
その他	1.2%

Q8 園芸店等で購入し、植えて食べた植物について、当てはまるものをお答えください。(お答えはいくつでも) (n=1,029) ※Q7で「園芸店等で購入した。」と回答した方

食用の植物を購入した。	97.0%
観賞用の植物を購入した。	19.0%
食用の植物か観賞用の植物か確認せずに、食用として購入した。	4.5%
食用の植物か観賞用の植物か意識せずに購入した。	1.7%
その他	0%

Q9 園芸店等で観賞用として販売されている植物の中には、食べると食中毒を起こす植物がありますが、植物による食中毒の症状について御存知なことをお答えください。(お答えはいくつでも) (n=2,000)

植物によっては、死亡や重い症状になる場合があることを知っている。	63.9%
植物によっては、おう吐などの症状になる場合があることを知っている。	55.0%
食べると食中毒を起こす植物があることを知らなかった。	19.1%

Q10 園芸店等で観賞用等として販売されている植物の中には、食べると食中毒を起こす植物がありますが、植物についてあなたはどのようなことを御存知ですか。当てはまるものをお答えください。(お答えは一つ) (n=880) ※Q7で「園芸店等で購入した。」と回答した方かつ Q9で症状について知っているとは回答した方

食中毒を起こす植物の名前も見た目も知っている。	28.1%
食中毒を起こす植物の名前のみ知っている。	22.6%
食中毒を起こす植物の見た目のみ知っている。	13.0%
食中毒を起こす植物の名前も見た目も知らない。	36.3%

Q11 家庭菜園や庭などに植物を植えている状況について、当てはまるものをお答えください。(お答えは一つ) (n=1,931) ※Q4で「家庭菜園や庭などに植えた植物を食べたことがある。」と回答した方

植物を植える場所を決めて、自然に生える植物と分けている。	49.2%
植物を植える場所を決めているが、自然に生える植物と分けていない。	16.4%
植物を植える場所は特に決めていない。	13.7%
自身で植えていないため分からない。	20.5%
その他	0.2%

Q12 家庭菜園や庭などに植物を植えている状況について、食用植物と観賞用植物を植えている場所に関して当てはまるものをお答えください。(お答えは一つ) (n=1,931) ※Q4で「家庭菜園や庭などに植えた植物を食べたことがある。」と回答した方

食用の植物と観賞用の植物を植える場所を明確に分けている。	45.1%
食用の植物と観賞用の植物を植える場所をある程度分けている。	19.1%
食用の植物と観賞用の植物の区別はつくが、植える場所は分けていない。	10.3%
食用の植物と観賞用の植物の区別がつかないので、同じ場所に植えている。	4.7%
自身で植えていないため分からない。	20.4%
その他	0.4%

Q13 家庭菜園や庭などの植物を食べる際に、その植物が食用かどうか自信がない場合の確認方法について、当てはまるものをお答えください。(お答えはいくつでも)  
(n=2,000)

食用の植物か、図鑑等と見比べて確認する。	20.0%
食用の植物か、知識のある人に見せて確認する。	17.7%
食用の植物か、匂いを嗅いで確認する。	7.7%
食用の植物か、口に入れて確認する。	2.9%
その他	2.4%
食用の植物のみを植えて食べており、確認しない。	37.0%
自信がなくても確認しない。	3.9%
自身で採取・調理をしなため分からない。	22.3%

Q14 過去3年間で野山などに自然に生えている植物(販売されていたものを除く。)を御自身で採取して食べた経験についてお答えください。(お答えは一つ)  
(n=645)※Q4で過去3年以内に「野山や林などの野外で採取した植物を食べたことがある。」と回答した方

5回以上自身で採取し、食べたことがある。	36.6%
2～4回自身で採取し、食べたことがある。	25.9%
1回自身で採取し、食べたことがある。	9.3%
自身で採取したことはないが、食べたことがある。	28.2%

Q15 過去3年間で自然に生えている植物の採取又は調理について、御自身に当てはまるものをお答えください。(お答えはいくつでも)(n=645)※Q4で過去3年以内に「野山や林などの野外で採取した植物を食べたことがある。」と回答した方

食用の植物と有毒な植物を見分けることができる。	35.3%
採取する際には、一つ一つ図鑑等と見比べて確認して採取する。	15.2%
調理する際に、一部の野草を取り置きし、食中毒が起きた際の手掛かりとする。	10.5%
調理する際に、有毒な植物が混ざっていないか図鑑等と見比べて確認する。	10.4%
その他	4.0%

Q16 食中毒になった場合に症状が重くなると思う順に、1位から7位までお答えください。(n=2,000)

	細菌	ウイルス	寄生虫	化学物質	動物性自然毒	植物性自然毒 (キノコ)	植物性自然毒 (野草)
1位	9.1%	10.8%	4.8%	8.2%	41.8%	19.1%	6.1%
2位	13.4%	11.0%	8.0%	8.1%	20.5%	28.1%	11.1%
3位	17.4%	13.2%	12.5%	11.3%	10.9%	15.3%	19.6%
4位	18.0%	16.5%	16.6%	12.6%	8.2%	12.8%	15.1%
5位	17.2%	18.2%	16.6%	14.1%	7.5%	11.2%	15.3%
6位	15.4%	17.1%	20.0%	17.0%	6.0%	7.9%	16.6%
7位	9.5%	13.2%	21.5%	28.7%	5.1%	5.6%	16.2%